

《巻頭言》

大分大学における禁煙推進活動

国立大学法人大分大学学長、日本禁煙学会・理事

北野正剛

はじめに

大分県では健康寿命日本一の実現を目標に掲げ、県民の健康づくりに関する事業の推進、連携および調整を図り、健康寿命日本一をおいたを創造するため、保健医療福祉関係団体、経済団体、マスコミ、行政等で構成する「健康寿命日本一おいた創造会議」が平成28年6月に発足した。私は広瀬勝貞大分県知事より同会議の会長を委嘱されている。平成30年7月に「望まない受動喫煙」をなくすため健康増進法を一部改正する法律が公布され、令和2年4月1日から全面施行されたが、本会議のなかでも禁煙推進を最重要テーマと位置付けている。

私は、平成23年に大分大学の学長に就任し今日に至るまで、学生・教職員を能動喫煙、受動喫煙の害から守るため学内外においてさまざまな禁煙推進活動を実施してきたが、その内容と成果について紹介する。

大分大学禁煙推進宣言

大分大学は、旦野原キャンパス(本学)、挾間キャンパス(医学部、医学部附属病院)、王子キャンパス(附属4校園)の3キャンパスより構成されている。平成19年1月に挾間キャンパス、同年8月より王子キャンパスを完全禁煙とし、平成23年4月には旦野原キャンパスも敷地内全面禁煙として「無煙化環境」を構築した(図1)。また、平成24年4月に「大分大学禁煙推進宣言」を制定し、本学のミッションとして、

- ・学生のすべてが非喫煙者となるよう努力すること
- ・学生にタバコの健康被害について正しい知識を伝えること
- ・学生の禁煙のための支援活動を教職員ならびに関係企業・団体との協力・連携により推進すること
- ・キャンパス内全面禁煙およびタバコの販売禁止を継続すること



図1 敷地内全面禁煙を示すキャンパス内の看板

を揚げ、すべての学生を喫煙による直接的・間接的健康被害から守ることを宣言した¹⁾。

学内規程

平成28年5月、職員の受動喫煙の防止等に関する規程として、大学職員の勤務時間内喫煙を禁じる規程が施行され、「職員が勤務時間中または法人の敷地内においては、喫煙してはならない」と、服務ハンドブックに明記した。平成31年3月には、健康増進法第25条の規定および国立大学法人大分大学職員の受動喫煙の防止等に関する規程の趣旨を踏まえ、「国立大学法人大分大学における教員選考の基本方針」にて非喫煙者を優先して選考することを定めた。ただし、本方針は喫煙者を排除するものではなく、喫煙者を採用した場合は、当該教員に対し、産業医による禁煙指導を受けさせることも定めている。

無煙環境推進士隊

平成27年度に結成された「無煙環境推進士隊」は、学長特命補佐(長期戦略、無煙環境・健康増進担当)、保健管理センター所長および各部局の禁煙推進担当者で構成され、喫煙者に対する禁煙治療の勧告や面談を行うなどの禁煙推進活動を行っている。また、全学禁煙推進担当者会議において、各学部や部局の課題を話し合い、その結果をフィードバックすることでスモークフリーなキャンパスの実現化に向けたPDCAサイクルを推し進めている。

教育啓発活動

平成26年度に実施したアンケート調査の結果、喫煙習慣のある学部4年生、大学院生の多くが、学部2年生から喫煙を開始していることが判明した²⁾。「非喫煙者」が入学後に「喫煙者」にならないようにするためには、新入生に対する啓発活動が重要と考え、例年、全学部の新入生に対して基礎ゼミの時間を設け、保健管理センター所長や外部講師による喫煙防止教育を実施している。また、平成29年度より喫煙率の高い理工学部の学生に対して、学部2年生以上を対象にした禁煙教育も開始した。近年、新型タバコの利用者が急増しているが³⁾、これも紙巻タバコと同様に能動喫煙、受動喫煙の両面において有害であり、禁煙対策には全

くならないことを、これらの啓発活動において強調している。

社会貢献としては、平成29年度より令和元年度まで毎年5月31日の世界禁煙デーに合わせ、禁煙推進に関する公開講座を実施した。

学内禁煙外来

平成26年度に実施したアンケート調査の結果、男女ともに、喫煙習慣のある学生の半数以上が「禁煙したい」と回答した²⁾。そこで、平成26年9月より保健管理センターにおいて、学内禁煙外来を開始した。禁煙補助薬としては、ニコチンパッチ、ニコチンガムを用いているが、これらはすべて学長戦略経費で賄われている。学内禁煙外来は、禁煙を希望する学生・教職員が学内において、医師・保健師の指導のもと無償で禁煙治療を受けることができる全国的にも新しい取り組みである。学内禁煙外来の受診者は、平成26年9月より令和2年9月までの6年間で、新規受診者は179名(学生134名、教職員45名)で、総受診者(延べ数)は、549名(学生380名、教職員169名)である。

禁煙推進活動用アイデア公募

例年、世界禁煙デーに合わせた禁煙推進活動用アイデア公募を行っている。これは、本学の禁煙活動をさらに推進するため実施しているもので、デザイン部門、禁煙推進プラン部門、標語部門に分けて行っており、優秀作品は、禁煙活動の啓発・推進のため学内で広く活用されている。特にデザイン部門においては、優秀作品をモチーフにしてクリアファイルや幟を作成し、クリアファイルは学生・教職員全員に配布している(図2)。

学生・教職員の喫煙率

無煙環境推進活動を継続してきた結果、学生・教職員の喫煙率が徐々に改善している。令和元年度の学生の喫煙率は、平成25年度比で男性が9.3%から4.9%、女性が1.0%から0.6%と低下し、特に、男子学生の喫煙率が大幅に改善された(図3)。一方、教職員の喫煙率についても令和元年度は、平成25年度比で男性が17.9%から12.3%まで、女性が3.2%から1.9%まで低下した(図4)。



図2 令和2年度の優秀作品をモチーフにして作成されたクリアファイルと幟

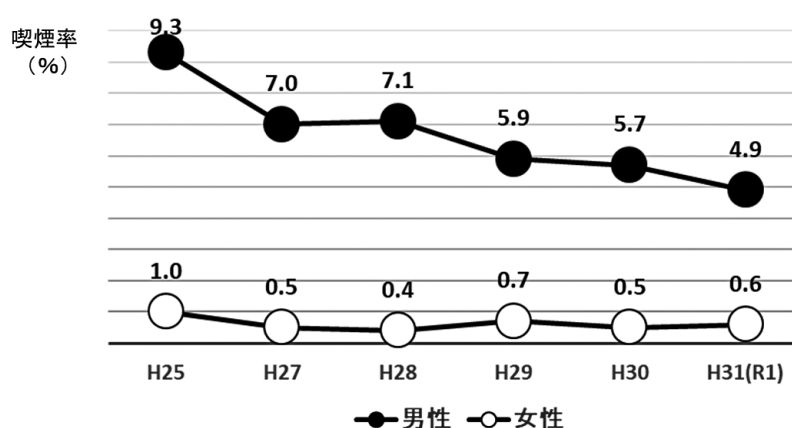


図3 学生の喫煙率の推移

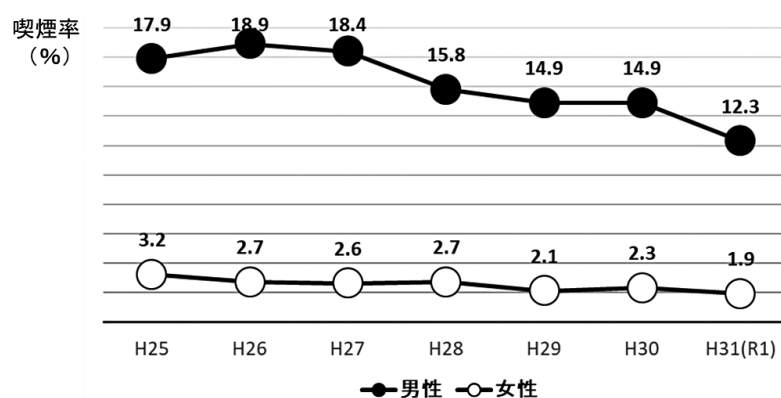


図4 教職員(旦野原・挾間キャンパス)の喫煙率の推移

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と禁煙推進

2020年に全世界を襲ったCOVID-19パンデミックにより、私たちの日常生活は大きく変わり、医学・医療体制の種々の変革を余儀なくされている。教育現場においてもCOVID-19拡大の影響により多くの大学においてオンライン授業が中心となり、

対面式授業を行うのが困難な状況となっている。大分大学では、令和2年度はオンライン授業にて喫煙防止教育・禁煙教育を実施し、オンラインによる学内禁煙外来も開始した。また、学生・教職員に対する感染症対策等の通達文の中で、喫煙がCOVID-19の重症化の原因となる⁴⁾ことを伝えている。

第15回日本禁煙学会学術総会(大分大会)

令和3年10月16日(土)～17日(日)に、大分市にて第15回日本禁煙学会学術総会が開催される(図5)。大分大会のテーマは「受動喫煙をなくし健康寿命を伸ばそう」、副題として「－COVID-19から得られたこと－」とした。本学術総会では、COVID-19と喫煙をテーマとしたシンポジウムや特別講演、各科領域における禁煙治療や禁煙遠隔診療、新型タバコ、教育現場における無煙環境推進に関するシンポジウムやワークショップ等を予定しており、これら諸問題の認識を深めていきたいと考えている。また、禁煙および健康に関して、行政と関係団体が一体となり大分県から発信していく企画も設けている。さらに、大学の専門性を生かして、タバコに関連する各種の癌、呼吸器疾患、循環器疾患等に関するセッションを行うとともに、例年通り看護部会、歯科部会、薬学部会のセミナーを予定している。本学術総会が実り多きものとなるよう大分大学をあげて鋭意準備しており、多数のご参加を心待ちにしている。

終わりに

大学における無煙環境推進活動のあり方としては、「喫煙は百害あって一利なし」という信念に基づいた学長の強いリーダーシップが必要で、敷地内全面禁煙や大学職員の受動喫煙防止等に関する規程を制定することが重要である。そのうえで、禁煙を希望する学生に対しては、無償の学内禁煙外来により大学として全面的にサポートする体制をとることも必要と考えている。

日本の未来を担う若者は、まず健康でなければならない。学生に対して専門的な知識を植え付け



図5 第15回日本禁煙学会学術総会ポスター

るだけでなく、「喫煙病」に犯されていない健康な身体で学生を社会に送り出すことは、大学の重要な使命と考えている。

引用文献

- 1) 北野正剛：大分県から全国へ広がった禁煙推進－タクシー全車禁煙の事例から大分大学の禁煙化へ－. 禁煙会誌 2014；9：38-40.
- 2) 工藤欣邦, 木戸芳香, 河野香奈江, ほか：大分大学学生の喫煙に関する実態調査と今後の課題. CAMPUS HEALTH 2015；52：89-94.
- 3) 田淵貴大：新型タバコ時代の到来. 禁煙会誌 2019；14：77-78.
- 4) 松崎道幸：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とタバコ. 禁煙会誌 2020；15：29-31.